

# 女性の権利 男女の役割を決めつけていませんか？

人は誰でも自分らしく、そして幸せに生活するという基本的な権利を、生まれたときから持っています。この権利を「人権」といいます。

現在、同和問題をはじめ、女性や子どもの人権など多くの人権問題があります。様々な人権問題を解決していくには、私たち一人ひとりが、相手の立場に立つて考え、自分の言動に責任を持つことが重要です。

そこで、本年度の人権教育シリーズは、熊本県人権センターが作成しました「くらしと人権」をもとに人権問題について考えてみたいと思います。

## ある日の出来事 「お母さんのお仕事」

先週お隣に引越してきた拓也くんは、パパとママと3人暮らし。ぼくとはもうすっかり仲良しなんだ。「拓也くんのおうち、お仕事はなあに？」とママ。「消防士だよ。すごいかっこいいから、拓也くんも大きくなったら消防士になるんだって。」「へえ、素敵ねえ。」

次の日、ぼくのママと拓也くんのママが立ち話をしている。「ご主人は消防のお仕事を？」「いいえ、わたしなんですよ。」「ママの目はまんまる！」「そうか、ママは拓也くんのパパが消防士だと思ってるんだ！」

拓也くんはいつもかっこいいお母さんの自慢をしてくる。だから、ぼくはママに聞かれて「消防士」って答えたんだ。「男性の職場だと思われがちですけど、女性の消防士もいるんですよ。夫は料理が得意だから、夜勤の日も心配しなくていいし。」「ビックリ顔だったママも、だんだんニコニコ顔。ぜひ今度ごちそうになりたいわ、なんて調子がいよいよ。

## 考えてみましょう。

ふだん何気なく使っている言葉の中に、「男性はこうあるべきだ、女性はこうあるべきだ」などの性別による役割分担意識があることに気づいたことはありませんか？  
女性の社会進出が進み、様々な分野で活躍する女性が増えてきた一方で、こうした男女の役割を固定的にとらえ

る意識が、いまだに私たちの心の中に深く根付いており、そうしたことが職場や家庭において様々な男女差別を生む原因になることがあります。  
私たちは男性・女性である前に、一人の人間であり、男女が性別にかかわらずなく、それぞれの個性や生き方を尊重し、互いに力を合わせることで、豊かな社会づくりにつながるのではないのでしょうか。  
まずは、家事、育児など身近なことを一緒に取り組むことから始めてみませんか。

## 女性の権利について、その他にどんなことが問題となっているのでしょうか。

このほか、現在、ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為や性犯罪など女性に対する暴力が大きな問題となっています。こうした行為は、女性の基本的人権を踏みこじるものであり、重大な人権侵害です。  
(熊本県人権センター「くらしと人権」より)

益城町教育委員会

## 地名の歴史

# 歴史の変遷と地名

309

馬水の共同墓地の一郭に桜に囲まれ「澹菴藤本先生墓」と大書した六角形の墓があります。その遺骨はつとにご家族の手で東京に移され、残るのは墓石だけです。この文字は涿々疊の創立者である佐々友房の書です。

藤本澹菴は「肥後先哲偉蹟後篇」に顕彰される偉人で、その墓碑銘は明治二十一年七月の日付で友人の西山源義寅が「謹撰」として六角の墓石全面に刻してあり、その碑文と佐々友房の書は墓石だけでも幕末から明治にかけて馬水に居住した、先哲の事跡を語る貴重な益城町の文化財です。

その事跡を肥後先哲偉蹟と墓碑銘から紹介します。

「名は龍象、通称九兵衛、本姓桑木氏、出でて藤本氏を嗣ぐ、世祿百五十石、時習館句読師・郡代、鞆獄等を勤む。致仕後上益城郡廣安村馬水に退隠して、子弟に教ゆ、明治二十年六月五日没す。馬水に葬る(先哲偉蹟)」とあり、この経歴を詳しくしたのが墓碑銘です。馬水では家塾を開き青少年を訓育した功績は大き

く、佐々友房も弟子の一人です。その経歴を記した漢文の墓碑銘を意識して紹介します。「名は龍象、通称は九兵衛、幼時の名は彦根と呼ばれ桑木格助(細川藩士二百七十石)の次男で俊秀のため、細川藩校「時習館」の居寮生徒(選抜されたわずかに二十五人の藩の寄宿舎生徒)になり、規定の勉強を終えても五年間学に励んだ。その後加藤清正の旧臣で今は細川藩士、馬水居住の藤本廣由(百五十石)に子がないため、廣由は龍象の優秀を聞き廣由の妻の妹を妻合わせて養子とした。天保六年養父廣由は老齢のため隠居し藤本家の当主となる。」



馬水の共同墓地に残る墓碑

益城町文化財を訪ねる会  
会長 松野國策